

地理学習指導案

重森

1. 日時 場所 平成6年10月28日(金)5校時 13:40~14:30 可部中学校

2. 対 象 1年4組 男子20名 女子17名 計 37名

3. 教 材 九州地方「亜熱帯の沖縄」(単元「日本の南西部」東京書籍)

4. 教材設定の理由 ○ 「おきなわ」は、太平洋戦争において激戦地となり多くの犠牲者を出した。その後、長年にわたり、アメリカ軍の占領下におかれた。

それ以前にも、薩摩藩による侵略、ペリー来航時の威嚇など、悲劇の歴史を繰り返していたのである。しかし、すべてが悲惨な歴史ばかりではない。大陸や日本本土から隔絶された島々は美しい自然を今に伝えている。また、古くは遣唐使の南路の要所として、あるいはグスク時代の後、日本本土・朝鮮・中国・東南アジアとの盛んな交易により利益を収めた。そして、それらの国々の文化を融合させ、独自の文化を創造していったのである。

現在、本土復帰を果たした「沖縄」の人々の生活を決して安直に考えることはできない。それは、低い土地生産性、消費地からの距離の遠さ、台風襲来の影響、米軍基地の存在などが産業進展の大きな妨げとなっているからである。こうした自然環境、社会環境の中で生活する人々の生活を学ぶことは、わが国の国土に対する認識を真に深める上で大きな意義がある。

○ 生徒は、小学校5年時で、わが国の自然や産業のあらましを学習している。また、6年時では、わが国の歴史、政治、外国とのつながりにふれている。中学校入学時は、履修内容の多さにやや戸惑いを見せていたが、徐々に中学生としての学習のスタイルを確立しつつある。

4組は、落ち着きのある集団である。学習に対して意欲的な生徒も多いが、なかなか定着しない。発表や反応は、知識事項を問うものに対しては比較的多いが、社会的事象の原因や因果関係を問う場合、極端に反応が鈍る傾向があり、生き生きとした学習活動の創造にはかなりの課題が残っている。

○ 指導にあたっては、学習への意欲をより高め、自ら課題を発見し、地理的事象を多角的に考察し課題を解決していこうとする態度と能力を身につけさせるために、個とグループを生かす場面を設定する。すなわち、個人の表現活動、小集団による課題の発見、全体での話し合いによる課題解決、の三過程を本時の中心に位置づけ、主体的、かつ能動的な学習活動を創造したい。

5. 目 標

- ◎ 九州地方の産業のあらましを理解させる。
- ◎ 自然環境を生かした九州地方の農業の特色について理解させる。
- ◎ 北九州工業地帯を中心に四大工業地帯の特色を理解させる。
- ◎ エネルギー革命の進行とともに九州地方の鉱工業がどのように変化していったか理解させる。

6. 指導計画

- ◎ 亜熱帯の沖縄(1時間)……………本時
- ◎ 火山帯の観光とシラス台地の開発(1時間)
- ◎ 多彩な九州の農業(1時間)
- ◎ 大きく変化している九州の工業(1時間)

7. 本時の目標

- ◎ 亜熱帯性の気候を生かした沖縄県の産業の特色を理解させる。
- ◎ 地図帳や資料に親しみ、かつ活用することを通して地理的事象を多面的に考察し、公正に判断しようとする態度を育てる。
- ◎ みずから課題を発見し、解決していこうとする態度と能力を育成する。

8. 指導過程

	指 導 過 程	指 導 上 の 留 意 点
1	沖縄県の位置・自然などについて理解させる。	◎ 沖縄県のイメージを膨らませて授業にのぞませるために、事前に課題を与えて調査させておく。 ◎ 適切な資料を準備することで、本時の学習への興味を高める。 ◎ 導入部分が後半部分に関係するよう内容を精選する。
2	沖縄県に関する読み物資料から疑問点を上げ、疑問点について考えさせる。 個 人 ↓ 班 ↓ 全 体	◎ 「ひろし君の沖縄旅行記」（読み物資料）を用い、親近感をもたせる。 ◎ 全員が疑問を発見できるよう資料を工夫し、内容を把握しやすいものを用いる。 ◎ 疑問については、生徒の発達段階に合わせ、「語句についての疑問」「地理的事象の原因についての疑問（どうしてそうなるのか）」の二段階に分類する。 ◎ 班内の討論がスムーズに進行するように、司会・記録者・発表者の役割分担を事前に明確にしておくとともに、班ごとに「疑問発見プリント」を準備する。 ◎ 班が全体に発表する際の疑問は「どうしてそうなるのか」という内容に絞らせ、学級討論の柱とする。 ◎ 学級討論の際は、地図帳や教科書の統計資料を取り入れる。

3	読み物資料の続きを読み、沖縄県の産業についてまとめさせる。 個 人 ↓ 全 体	◎ 第3次産業の割合が高いことに注目させる。 ◎ 観光業の急速な伸びが、沖縄県の自然環境を変容させていることに気づかせる。
4	プリントに理解できたこと、疑問に思ったことをまとめさせる。	◎ 討論できなかった疑問に対し、指示を与える。

9. 評 価
- ◎ 自ら疑問を発見し、解決しようとする意欲と態度をもっていたか。
 - ◎ 地理的事象をさまざまな角度から考えることができたか。
 - ◎ 資料を十分に活用できたか。
 - ◎ 必要な語句やその意味を理解できたか。

10. 準 備 物
- ◎ 読み物資料「ひろし君の沖縄旅行記」
 - ◎ 疑問発見プリント（班用）
 - ◎ 板書用プリント（個人用）
 - ◎ 資料プリント

『ひろし君の沖縄旅行記』

ひろくは、今年の3月11日から13日まで沖縄県に行ってきました。

以前から沖縄県にたいへん興味をもっていたのでとても楽しみでした。できれば、沖縄県の産業について少しでも勉強をすることができれば、と考えて出発しました。

◇ 3月11日（金） 晴

12時25分、ひろくを乗せた広島新空港発ボーイング767は、那覇空港を目指し飛び立ちました。わずか、1時間45分で常夏の沖縄県に行けるなんて感激です。

窓からの眺めを満喫しているうちに、あっという間に南西諸島の島々にさしかかりました。「何て美しい海だろう。」こんなに美しい海は見ることがありません。

また、色とりどりの珊瑚礁に囲まれた島々はひろくの目を捕らえて離しません。あつて聞いた話ですが、沖縄県の土地の1/3以上はこの珊瑚礁が陸地となったものなのだそうです。やがて、ジェット機は沖縄島にさしかかり、那覇空港に着陸しました。

最初の印象は「暑いなあ。」ということです。沖縄県の人々はこの気温に慣れているのでしょうか、長そでを着ていますが、ひろくはTシャツ1枚になってしまいました。

今日は、那覇市内をはじめとする沖縄県南部を観光バスでめぐりました。お城や防空壕の跡などを見学し、ひろくは沖縄県の歴史を深く考えることができました。

◇ 3月12日（土） 晴

今日は沖縄島の中央部から北部をめぐることになっていました。那覇市内から車で約1時間、嘉手納町にさしかかりました。昨日から気になっていたのですが、島内には金網で仕切られたところがたくさんあります。これはアメリカ軍の基地で、日本人は自由には出入りできないそうです。嘉手納町の面積の90%は嘉手納飛行場と呼ばれるアメリカ軍の空軍基地で甲子園球場の約800倍もあるそうです。日本にあるアメリカ軍基地の75%は沖縄県にあり、沖縄県の約11%に相当するそうです。これには驚いてしまいました。

夜になって、那覇市内の商店街に行ってみました。広島市の本通りのような立派な商店街が広がっていましたが店の看板にアルファベットを使ったものが多くほとんどひろくには読めませんでした。

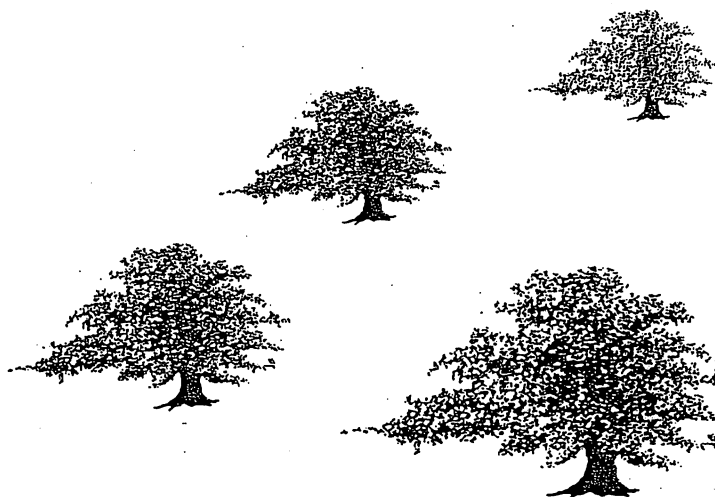
◇ 3月13日（日） 晴

いよいよ、沖縄旅行も最後の日となりました。午前中はグラスボートに乗り、珊瑚礁の海に泳ぐ熱帯魚の群れを見て楽しみました。

そして、昼食をとった後、再び那覇空港から広島県に向かいます。ジェット機が離陸したとき、ひろくはもう一度この3日間について考えてみました。

そして、不思議なことを思いつきました。一つ目は、広島県ならどこでもあつような大きな工場がほとんどなかったこと。そして二つ目は、結局一度も水田を見なかったことです。稲作に必要な条件は、適度な気温・水・土だと社会科の先生に教わりました。沖縄県には何かが欠けているのかなと思いました。水田のかわりに畑はたくさん見ることができました。本州にはないサトウキビ畑やパイナップル畑です。また本州ではこの時期咲いていないような花を美しく咲かせている農家もありました。

そのようなことを考えているうちに広島新空港に着陸しました。最初の印象は、「寒いなあ。」ということです。



『ひろし君の沖縄旅行記 2』

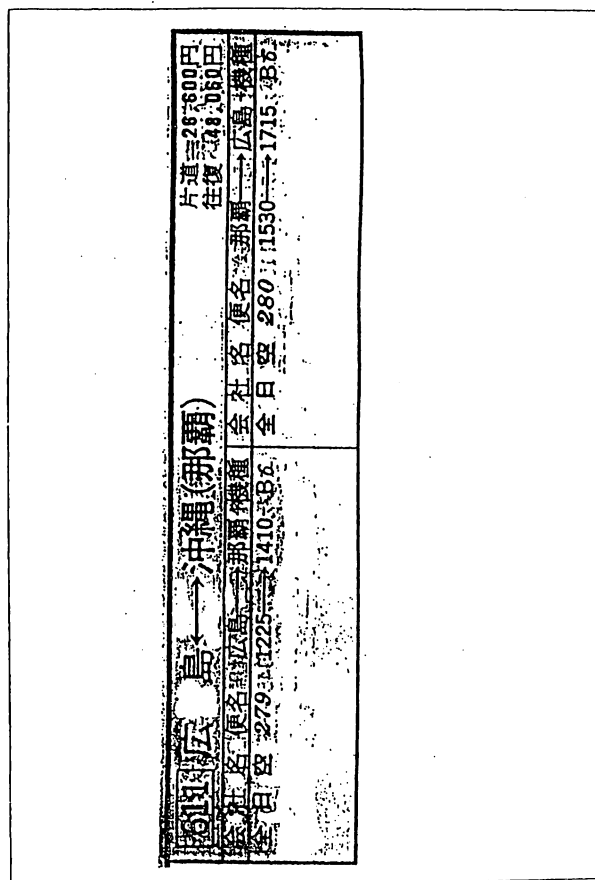
ひろくは広島に帰り、沖縄県についていろいろなことを調べました。その中で、産業別人口が一番興味をひかれました。

沖縄県は、第三次産業に就いている人の割合が、1990年の資料では71.4%となり、東京都（71.2%）を抜いて全国一になりました。もちろん、全国平均の59.7%を大きく上回っています。

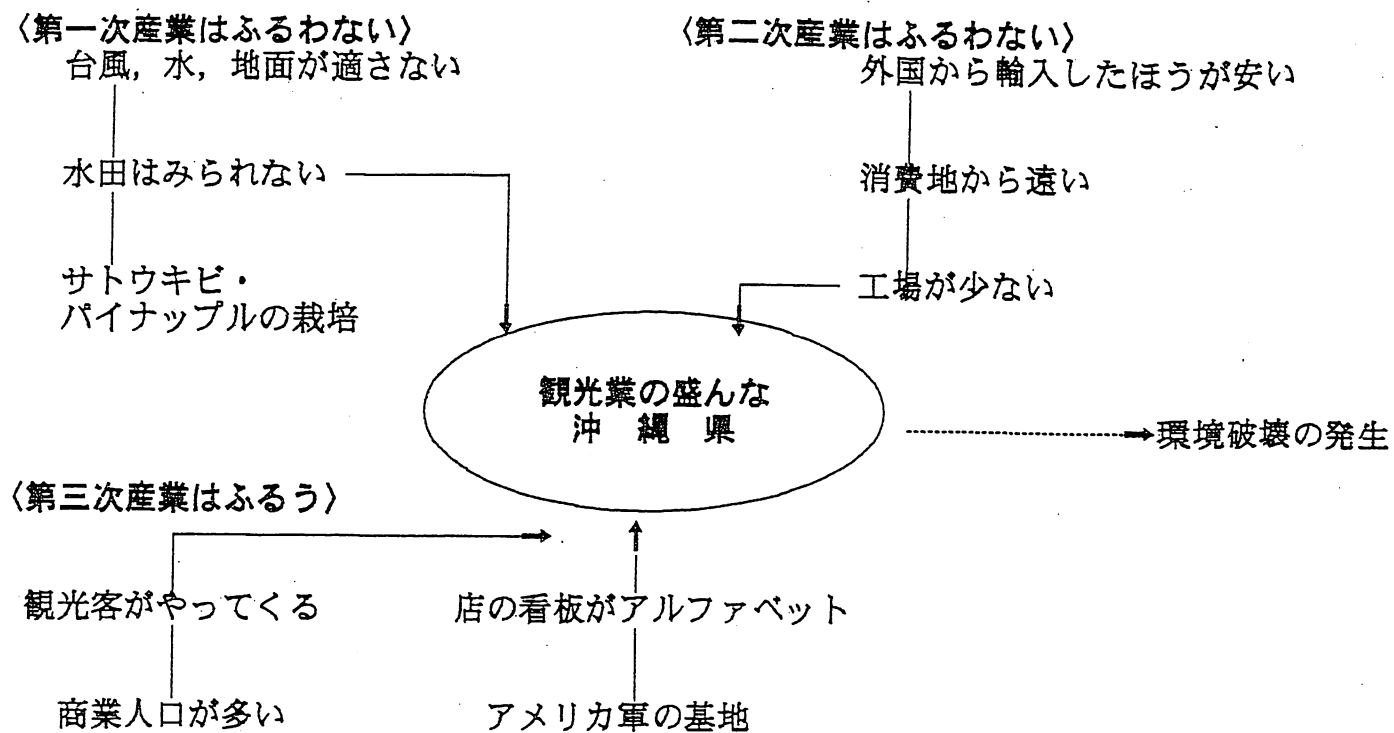
第三次産業の代表選手は商業です。調べていくうちに、沖縄県でも商業に就いている人の割合が高いことが分かりました。これには困ってしまいました。

第三次産業に就いている人の割合の高い都道府県

	都道府県	第三次産業の割合
1	沖縄県	71.4%
2	東京都	71.2%
3	福岡県	66.4%
4	北海道	65.7%
5	千葉県	64.8%
6	神奈川県	64.1%
7	大阪府	63.9%
	全 国	59.7%



(板書計画)



2 九州地方

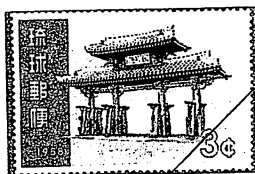


パイナップル畑(写真左上)
恩納村のリゾートホテル(写真左下)
琉球舞踊のけいこをする少女(写真右)

沖縄というと、
みんなはなにを
思い浮かべるかな。

1 独自の文化をもつ沖縄

▶ 日本のなかで、沖縄が独自の文化をもつ地域になったのはなぜか、考えてみよう。



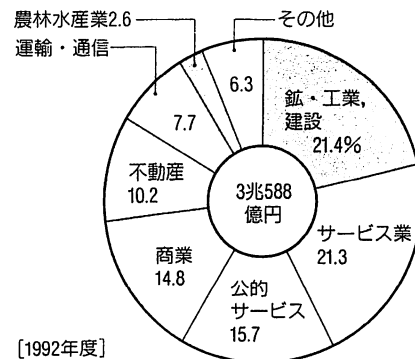
首里城の守礼の門の復元を記念して発行された切手 1958年発行。金額の単位を見てみよう。

亜熱帯の自然

沖縄県は雪は降らず、1月に桜が咲き、やしやバナナが自生する。また黒潮が流れ、海の水温は年じゅう20℃以上のため、色とりどりのさんごや熱帯魚が生育し、島のまわりには、さんごしょうが発達している。農業は、さとうきびを中心にパイナップル栽培などの亜熱帯の農業が行われている。近年では、マンゴーなど熱帯性の果樹やらん、きくなどの花の生産もさかんになり、各地に出荷されるようになった。

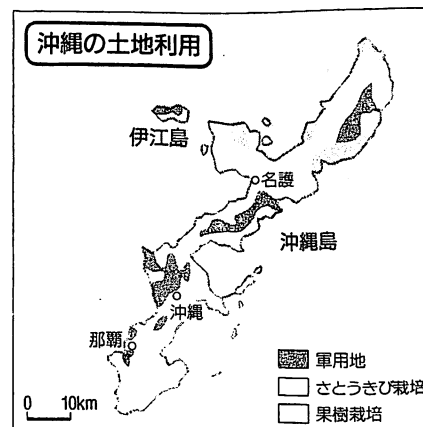
琉球の独特な文化

沖縄では、15世紀ごろから奄美諸島までふくめ琉球王国が成立していた。17世紀はじめから、薩摩藩の支配を受けたが、中国などと交易しながら存続し、1879年(明治12年)に沖縄県となった。



[1992年度]

沖縄県の県内総生産のうわけ(第38回沖縄県統計年鑑)

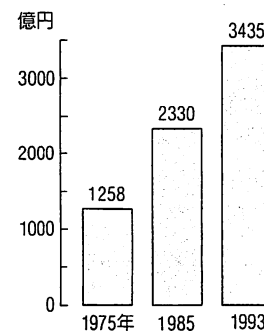


た。方言、祭り、史跡、民謡、舞踊、料理、伝統的工芸品など、中国や日本の影響を受けながらも独自の文化を育ててきた。

第二次世界大戦の末期には、激しい地上戦で多くの人々が犠牲になった。戦後、27年間にわたってアメリカ軍の支配が続いたが、1972年に日本に復帰した。しかし、いぜんとして沖縄本島の約20%をアメリカ軍基地がしめている。

観光産業の発展

戦後、基地にたよる仕事や生活が長く続いたが、復帰後は、基地の縮小などで新たな経済発展が求められた。しかし、水など資源がとぼしいため工業化が進まず、独自の文化と自然を生かした観光産業が急成長をした。今では、毎年300万人(1992年)以上の観光客を迎え、重要な産業となっている。いっぽう、道路工事や農地開発で、土砂がさんごしょうの海を汚染し、また、森林伐採などでヤンバルクイナなどの貴重な動物が絶滅しようとしており、開発と自然保護の調和がさげばれている。



沖縄県の観光収入の移り変わり(第38回沖縄県統計年鑑)